
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

2021年度第3回研究会(通算第8回目)

日時: 2022年3月25日(金) 13:00-17:00

場所: オンライン

使用言語: 日本語, 英語

1. 塩原朝子 (AA 研所員), 木本幸憲 (AA 研共同研究員, 兵庫大学), Yanti (AA 研共同研究員, UNIKA Atma Jaya), 野元裕樹 (AA 研共同研究員, 東京外国語大学)「アルタ語と口語インドネシア語における直接話法の役割」
2. 野元裕樹 (AA 研共同研究員, 東京外国語大学)「代名詞代用・呼びかけ表現共通調査項目から見る SCOPIC データ」
3. 大野仁美 (AA 研共同研究員, 麗澤大学)「ガイ語の reported speech」
4. 全員 プロジェクトの総括と今後の展望に関する議論

1の発表では、塩原、木本、野元が海外連携研究者 Yanti とともに行ったオーストロネシア諸語の引用構文についての研究を報告した。この研究は系統的に近い関係を持つマレー語と口語インドネシア語、および、フィリピンのイロカノ語とアルタ語の引用構文の現れ方に関する対照研究である。アルタ語と口語インドネシア語では、マレー語とイロカノ語に比べて直接話法の割合が高いこと、また、直接話法の中でもフレーム（「～と言った」のように発話動詞を含む部分）がない引用が多く観察されたことを示した上で、口語インドネシア語、アルタ語におけるそのようなフレームのない引用の機能を検討した。2の発表では SCOPIC に現れるマレー語の代名詞代用・呼びかけ表現を扱った。3の発表ではグイ語の reported speech の現れ方を扱った。

最後に3年間の研究会の総括として、研究成果の公開方法と今後の課題について議論を行った。